

令和7年度 後期 学校評価 結果と分析

気仙沼高校 全日制

1 実施日および回収率

- 生徒調査 : 12月4日～17日 回答数589人／全生徒数593人 (回収率99.3%)
- 保護者調査 : 12月4日～17日 回答数340人／全世帯数563人 (回収率60.3%)
- 教職員調査 : 12月4日～17日 回答数 47人／全職員数 53人 (回収率88.6%)

*保護者の分母は兄弟姉妹の重複を考慮し、世帯数とした。

2 アンケートの概要

本校の教育全般にわたる教育計画および教育活動にかかる点検・評価を行うために、学校評価委員会(紙面開催)の審議を経て、令和7年度後期学校評価を実施した。

3 分析

(1) 分析の方針

グラフは今回の学校評価と前期学校評価とを比較できるよう並べて作成した。また、各評価項目において「そう思う」と「大体そう思う」をあわせた割合の高いものまたは前期と比較して肯定的な評価の割合が増加した項目と低いものまたは肯定的な評価の割合が減少したものを、それぞれ「○肯定的評価の高い項目」、「●肯定的評価の低い項目」として、生徒・教員・保護者の別にまとめた。(数値は全て%)
なお、保護者調査の回収率は前期と比較し8.6ポイント減少している。

(2) 分析と考察

①生徒

○「7 気仙沼高校では、生徒会活動は活発に行われている。」

	1年	2年	3年
前期	91.3	78.7	84.1
後期	94.5	81.3	87.5

前期と比較して、全学年で肯定的評価が増加している。90%を超えているのは1学年のみという状況ではあるが、前期との比較で全学年の評価が改善している項目は7番と10番の項目だけであることを考えると取り組みに一定の改善が見られたと評価できる。生徒会活動は、生徒会執行部が中心となるため、一部の生徒の取り組みと誤解される傾向にあるが、各学校行事はもちろんのこと県内外の他校の生徒との交流事業なども含め、全体を巻き込んだ生徒主体の活動となるよう、支援していきたい。

○「10 校内において、災害、非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。」

	1年	2年	3年
前期	97.8	97.0	97.0
後期	99.5	98.5	98.0

全学年で肯定的評価が90%を超え、かつ前期と比較して各学年ともに肯定的評価が微増した項目である。本校は、防災教育を教育の大きな柱としており、毎回の避難訓練も各回で様々な状況を設定し実施している。また、後期評価の期間である11月には防災週間として、避難訓練のみならず各教科での防災に関連する授業も実施している。また、今年度は夏季休業中に津波注意報・警報が発令されたり、熊出没に関連して非常時への対応が余儀なくされたりするなど、机上の想定ではなく実際に身の安全を確保する事態に遭遇したことで、防災・非常時対応の意識も向上したものと考えられる。今後とも様々な事態を想定した危機管理マニュアルの確認や事前対応などを充実させていきたい。

●「18 探究活動（授業、課題研究・講演会・交流会等）によって活動の場が広がり、学習意欲の向上に寄与している。」

	1年	2年	3年
前期	91.3	90.6	87.6
後期	91.8	80.8	95.0

この項目は、3学年では7.4ポイント肯定的な評価が改善し、1学年でも90%を超える肯定的評価であったが、2学年のみ約10ポイント肯定的評価が減少した。前期と比較して、減少幅が一番多い項目となった。2学年の後期は進路目標が明確になり受験を意識した学習に本格的に取り組み始める時期といえる。また、台湾研修や修学旅行、各種模擬試験の受験など、授業以外での時間の有効活用についても工夫が必要な時期でもある。探究活動も1学年と比較して本格化し、受験を意識した学習と探究的な学習の目標に乖離を感じているのではないだろうか。探究的な学習については、その本来の意義を丁寧に確認しながら、教科学習の両輪として、展開していく必要がある。各教科の授業での探究的な学習を一層推進し、学習意欲の向上をはかっていきたい。

②保護者

○「1 気仙沼高校では、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている。」

	1年	2年	3年
前期	99.2	94.7	89.6
後期	96.3	96.9	94.9

アンケート18項目のうち、全学年で肯定的評価が90%を超えた項目である。（他は、「14 充実した学校生活」）前期と比較し、1学年では若干肯定的評価が減少したが、2学年、3学年では肯定的評価が増加した。スクールポリシーの達成や具現化は、高校生活の3年間を通じてなされるものであり、その成果の評価についても難しい部分がある。今年度は、PTA総会のみならず学校評価実施に際してもスクールポリシーについて資料を配布し、保護者の皆様にもご確認いただいているところである。また、校内においてもスクールポリシーをより意識した指導を実施しており、それらの結果が2学年、3学年の生徒保護者の皆様にご理解いただけたものとする。教育課程の編成・実施については、今後ともスクールポリシーを意識し各教科の授業はもちろんのこと探究学習や学校行事などあらゆる場面で、気仙沼高校として目指す生徒を育成していきたい。

○「10 校内において、災害、非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。」

	1年	2年	3年
前期	90.9	88.5	86.2
後期	95.5	93.1	88.7

前期と比較し、全学年で肯定的評価が増加した項目である。生徒対象アンケートでも全学年で肯定的評価が増加した。前述の生徒結果分析にも記載したが、今年度は夏季休業中の津波注意報・警報の発令や学校周辺での熊出没事案、12月の地震による津波注意報の発生による始業時間繰り下げなどの際、生徒の安全面に配慮し、自家用車での送迎など保護者の皆様にご協力をいただいた。非常時の自家用車での送迎については、周辺の交通渋滞など課題は残ったが、生徒の安全を優先した対応や、連絡についてのクラッシー利用など一定のご理解と評価をいただいたものとする。災害や非常事態については、いつどのような場面でも発生しうるものであるため、今後とも避難訓練やクラッシーを活用した安否確認訓練などを実施し、情報共有を含め非常時に対して常日頃から備えていきたい。

●「12 気仙沼高校の校舎やグラウンドなど、施設や設備は整備されている。」

	1年	2年	3年
前期	82.2	71.5	70.1
後期	67.6	70.1	72.2

全質問項目の中で、肯定的評価がかなり低い項目となっている。前期調査では1学年での評価が80%を超えていたが、後期では残念ながら全学年で70%前後となってしまった。施設設備の更新や整備に関しては、県からの予算配当に依拠する部分も多く、大幅な施設設備の改善は単年度で達成することは難しい状況にある。今年度は、トイレの一部様式化や硬式野球部グラウンドの整備(今後予定)、正門前アスファルトの改修工事、ソフトテニス部テニスネット支柱の整備などを実施したところである。生徒の学習環境整備については、既存の施設設備を丁寧に取り扱うなど老朽化や経年劣化による部分を少しでも遅らせるなどの対応を取りつつ、安全面を優先に引き続き関係各所に働きかけていきたい。

③教職員

○「8 本校では基本的な生活習慣を身につけさせる指導が十分に行われている。」

前期	83.0
後期	87.0

○「9 本校では生活指導に対する共通理解・協力的実践がなされている。」

前期	83.0
後期	89.4

前期と比較しそれぞれ4ポイント、6.4ポイント改善された。4ポイント以上数値が向上した項目は全質問項目のうち、「8 基本的な生活習慣の指導」と「9 生活指導に対する共通理解・協力」の2項目であった。基本的な生活習慣については、高校入学後に身に着けるものというよりも、これまでの生活において形作られている習慣であることが多い。もちろん、高校生として必要な挨拶やマナーなどについては、部活動や学校行事など様々な学校生活を通じて形作られている。本校でも、各長期休業明けの登校指導や探究活動のフィールドワーク事前指導などにおいて挨拶やマナーについて指導している。今年度は、生徒安全部が中心となり指導における目線合わせなど意識的に取り組んできた。日頃の生活習慣についても、保護者の皆様と協力しより良い習慣の確立に寄与できるよう共通理解のもと生徒へ啓発していきたい。

●「15 校内放送設備や視聴覚機材は整備されている。」

前期	92.5
後期	87.2

前期と比較し5.3ポイント肯定的評価が減少した項目である。校内放送の一部設備については、日常的な利用がなされないことを原因とする不具合が、また視聴覚機材についても一部クラスでプロジェクターの照度不足などの不具合が確認された(現在は改善済み)。施設設備の整備といった項目でも触れたが、放送設備や視聴覚教材の整備については県予算の配当に依拠する部分が多い。校内放送については、設備の定期的な稼働及び点検を実施、プロジェクター等の視聴覚機器については、一部更新し対応しているところである。各種機材整備については、日常の使用や点検による不具合の迅速な発見と、メンテナンス等を実施し環境整備に努めていきたい。